平成 28 年 11 月 25 日

中山道を歩こう会

（北鴻巣～熊谷）

いよいよ最終回、熊谷までです。距離はちょっと長くなりますが、完歩を目指して、頑張って下さい。

記

■日　　時：平成 28 年 11 月 25 日（金）8 時 35 分集合

■集合場所：新秋津駅 改札外
（東所沢駅から 8：44 発むさしの号後の車両に乗車下さい）

■見学場所及び時間：コース全長約 12km
新秋津駅(8:41 発　むさしの号大宮行)⇒北鴻巣駅（9：38）
⇒龍昌寺⇒前砂一里塚跡⇒休憩⇒忍領界石標⇒妙徳地蔵堂
⇒昼食（庄や）⇒東曜寺⇒榎戸堰公園⇒権八地蔵⇒久下一里塚跡
⇒久下神社⇒権八地蔵⇒みかりや跡⇒東竹院⇒むさしとよみ生息地
⇒八丁の一里塚跡⇒熊谷駅…南浦和経由　所沢（18:00 頃帰着予定）

■交通費（所沢から）：約 2,110 円

■昼食　庄や 吹上南口店　11:30～12:30　☎050-5280-2489

■散策先簡単ガイド

＜龍昌寺＞　曹洞宗隋流山龍昌寺

開創は寛永２年（1625）。関東郡代伊那忠次が開基、境内に多数の板碑があります。

このお寺の奥様は気さくな方で中山道を歩かれたそうで、鐘を衝いて良いとか、本堂の天井絵をみて下さいとか言ってくれるそうです。

＜前砂村碑＞

このあたりが英泉の「吹上富士遠望」の図の位置らしい。

＜前砂一里塚跡＞

吹上町指定文化財となっている前砂一里塚は 13 番目の一里塚で木製の標柱があるのみです。12 番目の一里塚は箕田の一里塚ですが、その場所を示す標柱もないのでこんな標柱だけでもあると嬉しいものです。

＜忍領界石標＞

江原家の門の中には**「従是西忍領」**と刻まれた立派な**忍領界石標**があります。江原家はこのあたりの名主を勤めた家柄で、今でも高札を 12 枚保存しています。三河武士の出身で 400 年前から続く名家で、現在は 17 代目なのだそうです。お住まいの中なので、『忍領界石標』は遠くからしか見ることができません。

＜間(あい)の宿吹上＞

踏切の手前に新しい石碑がある。ここから「吹上間の宿」で、吹上駅前交差点～吹上本町交差点にかけて「間の宿吹上」の中心として賑わっていたといいます。

＜妙徳地蔵堂＞

眼病に霊験あらかたかと言われ、お参りする人が絶えなかったそうです。

昼食：庄や吹上南口店　11:30～12:30

＜明治天皇駐輦(ちゅうれん)碑＞

間の宿吹上の中程、駐車場の奥に徳富蘇峰の筆に駐輦碑がある。輦とは天子の乗り物、それを駐めた場所、つまり休憩所という意味です。

＜東曜寺、八王子千人街道＞

八王子千人街道は八王子千人同心が日光勤番のために整備した八王子から日光へ至る、40 里（約 160km）の街道です。東曜寺の門前は中山道と千人同心街道が重複していたこともあって、立場や料理茶屋などが軒を並べていたそうです。加賀･前田家の参勤交代の行列がここで休憩していた際、八王子千人同心の一行が通れずに一触即発の事態になりました。八王子千人同心は徳川幕府直轄の武士団で前田家はあくまでも外様大名です。当時の住職が、道を塞いでいた前田家の一行を境内に招き入れ、茶でもてなし、八王子千人同心の一行は道を通ることができたという逸話が残されているそうです。

東曜寺は「いぼ地蔵」で有名、並んでいる吹上神社は吹上の鎮守。

＜榎戸堰公園＞

この榎戸堰を流れる河川が元荒川。古荒川とも呼ばれ、荒川と利根川が合流していた時代にはこの元荒川が荒川の本流でした。荒川は**関東郡代伊奈忠治**により寛永 6 年(1629 年)に久下(くげ)で締め切られ、入間川に合流するように付けかえられました。

荒川の本流から切り離された河川が元荒川となります。現在、元荒川はムサシトミヨ保護センター内に源を発し、南南東方向に流れ、越谷市で中川に合流します。

荒川は、東京湾に流れ込んでいた利根川の支川で、現在の元荒川筋を流れていました。

寛永6年（1629年）、伊奈忠治により荒川を利根川から分離する瀬替工事が行われました。
「荒川の西遷」と呼ばれ、現在の荒川の流路が形つくられました。

（トイレあり、一休み予定）

＜権八延命地蔵＞

別名権八ものいい地蔵と呼ばれています。権八とは歌舞伎「**鈴ヶ森**」の中で**幡随院長兵衛**に『**お若えの お待ちなせぇやし**』と呼びかけられた**白井権八**のことです。

権八は熊谷堤で商人を殺して金を奪いました。そして、振り返るとお地蔵さんが立っていたのです。権八は「一切は地蔵の胸に、他言無用」と言って去ろうとすると、その地蔵が「わしも言わぬが、お主も言うな」と口を聞いたといいます。

白井権八は歌舞伎の名前で、平井権八という実在の人物です。同僚を殺害したため脱藩し江戸に逃れ、その途中で金に困りこの久下(くげ)の長土手で絹商人を殺害し、大金を奪いました。平井権八はその後捕らえられ、延宝 8 年(1680 年)に鈴ヶ森の刑場で磔の刑に処せられました。

岐祖道中熊谷宿八丁堤ノ景

＜八丁の堤＞

吹上宿から久下村（現熊谷市久下）を抜ける中山道の荒川堤は**「久下の長土手」**あるいは**「八丁の堤」**と呼ばれた。その距離約 2.5km。

＜久下(くげ)一里塚＞

14 里目の久下一里塚(北側)跡が土手の下に位置します。土手の中腹あたりが昔の中山道の通っていた所です。

この手前 50m ほど熊谷寄り土手中腹に馬頭観音があります。

＜久下神社＞

久下神社は、鎌倉武士の熊谷直実の一族である久下直光が鎮守として三嶋社を創建、明治維新後村内各社を合祀し、久下神社と改称し当地へ移転したといいます。

＜権八地蔵＞

二つ目の権八地蔵、元禄 11 年（1698）建立で市指定有形民俗文化財。平井権八が処刑されたのは 1680 年なので、権八が処刑された後に建てられたものですね。

地蔵堂向かいの久下権八公園に伊藤博文の篆額の熊谷堤碑があります。篆額（てんがく）：篆書で書かれた題字

＜みかりや跡＞

みかりやは茶屋で、「しがらぎごぼうに久下ゆべし」との言葉があるそうで、久下のゆべしが名物だったのでしょう。忍藩主が鷹狩りの際に休んだので「御狩屋」と呼ばれました。

＜東竹院＞

寛文年間（1661-1672）に忍城主が、達磨大師に似た巨石を秩父から城中へ運ばせようとしたのだが、筏で運ぶ途中で川に落ちてしまいました。それから 250 年ほど経った大正 14 年に荒川の東竹院のすぐ前で、偶然に発見されたことから現在、**達磨石**として安置されています。

東竹院は**久下次郎重光**が開基し以降、江戸時代の寛永 19 年(1642)には寺領 30 石の御朱印寺となっています。鎌倉幕府の御家人久下次郎重光が、治承 4 年（1180）源頼朝の石橋山挙兵の時の駆け参じ武功をたて、頼朝より下賜された「丸に一の字家紋」を使っています。

＜久下の左富士＞

左富士を辞書でひくと「東海道で江戸から京に向かう際、道の左側に富士山が見えること」となっており、吉原と茅ヶ崎にあり浮世絵の題材にもなっています。中山道は京から江戸へ行く時、富士山はいつも右に見えるのですが、この場所で富士山が左側に見えます。

「過ぎし世の熊久（ゆうきゅう）橋や左富士」　（郷土カルタ）

＜八丁の一里塚＞

前の一里塚とここの間に八丁堤があることから「八丁一里塚」と呼ばれたそうです。15 里目の一里塚跡です。

＜熊谷次郎直実＞

熊谷駅には熊谷直実（くまがい なおざね）の銅像があります。熊谷 直実は、武蔵国熊谷郷（現熊谷市）を本拠地としました。熊谷直貞の次男。

熊谷氏は桓武平氏・平貞盛の孫・維時の六代の孫を称しますが、武蔵七党の私市党、丹波党の分かれともされ、あきらかではありません。

久下直光の代理人として京都に上った直実は、一人前の武士として扱われないことに不満を持ち、自立を決意し直光の元を去って平知盛に仕えます。そして、源頼朝挙兵の直前、東国に下り治承 4 年（1180 年）の石橋山の戦いまでは平家側に属していたが、以後、頼朝に臣従して御家人の一人となり、常陸国の佐竹氏征伐で大功を立て、熊谷郷の支配権を安堵される。

平家物語では一ノ谷の戦いで波打ち際を敗走する平家の公達らしき騎乗の若武者に一騎討ちを挑む。直実が若武者を馬から落とし、首を取ろうとすると、ちょうど我が子・直家ぐらいの齢だった。直実が「私は熊谷出身の次郎直実だ、あなたさまはどなたか」と訊くと、敦盛は「名乗ることはない、首実検すれば分かることだ」と答えた。これを聞いて直実は一瞬この若武者を逃がそうとしたが、背後に味方の手勢が迫る中、「同じことなら直実の手におかけ申して、後世のためのお供養をいたしましょう」といって、泣く泣くその首を切った。

波打ち際を逃げる平敦盛

その後、首実検をするとこの公達は清盛の甥・平敦盛と判明、齢十七だった。

＜帰路＞

熊谷（高崎線）⇒浦和（京浜東北線）⇒南浦和（武蔵野線）⇒新秋津経由所沢着 17:30 頃予定　　以上